

緑を大切に作る心を育み、 美しい自然を未来に残す

長崎グリーンヘルパーの会（長崎県）

竹林整備が求められる
長崎の問題に取り組む

前川文雄さんが会長を務める森林ボランティア団体、長崎グリーンヘルパーが設立されたのは平成一四年の一〇月。熊本、NPO法人緑のまちづくり交流協会が九州の各県で開催していた講習会を受講したのがきっかけです。

「高校生の頃から山岳部に所属していたこともあり、山登りが好きで月に一回、地域の子供たちを近くの山や川遊びに連れていく活動をしていました。その中で自分自身、もっと植物など自然への知識を深めて、子供たちに幅広い体験をさせてあげたいと思ったのが、講習会を受けたきっかけです」

前川さんはそこで一緒に受講した仲間と意気投合し、長崎グリーンヘルパーの会を立ち上げることに。

「まずは記念植樹をやりましょうということから始まりました。長崎市東出津町にある『遠藤周作文学館』の駐車場のまわりが荒れていたんで、椿などある程度、海風に強い植物を植えたんです。ただ、長崎は植樹をするところよりも、放置されている山が多く、竹が侵食している地域も多いんですね。県の指定名勝に選定されている歴史あるお寺「滝の観音」のご住職から依頼を受けて、竹林の整備も行いました」



長崎グリーンヘルパーの会のメンバー

自然が健全な姿に
戻ったときの達成感

現在の会員は四五名。緑を大切に、親しみ美しい自然を将来に残すため、間伐や竹林整備、長崎亜熱帯植物園の雑草の駆除、自然観察会など幅広い活動を行っています。

「現在の活動としては西海市の雑木林の竹を三年がかりで駆除し、植林ができる状態まで広げました。と同時に、隣接する小学校に働



右：間伐や竹林整備など精力的に活動
 左：会の立ち上げの時にいった記念植樹
 下：民有林の手入れも積極的に行っている

data
 〒 850-8570
 長崎県長崎市江戸町 2-13
 長崎県林務課内
 ☎ 095-895-2989

きかけ、ドングリから苗を育て、将来的には植えていこうと計画しています。今年やっと苗が育ってきたのですが、植物に接することによって子供たちの心も育んでいければと願っています。依頼があれば長崎市内の竹林整備も行っています。「自然観察会」は、県内はもちろん県外にも珍しい植生がある場所に出かけ、研修を兼ねたレクリエーションという形で定期的に開催しています」

そのほか間伐を主体に行っている他の会と

の共同作業で、民有林の手入れも行っているという前川さん。勢力的な活動のエネルギーの源はどこにあるのでしょうか？

「ひとつは会員の方々の熱心さですね。高齢の方が芝刈り機を持って除草をなさったり、自然観察会ときには食事やレジメを作ってみなさんに説明したりと非常に一生懸命なんです。もうひとつは間伐や竹林整備をして、自然が健全な姿に戻ったときに感じる達成感です。それはとても大きいですね」